

令和2年度(2020年度)

管理事業名	南千里庁舎管理事業				総合計画の 体系	大綱 - 政策 - 施策 -	-			
主な歳出 予算科目	一般会計	(款)	8	土木費	(項)	1	土木管理費	(目)	1	土木総務費
部局名	土木部	予算執行所属		総務交通室						
予算大事業名 南千里庁舎管理事業		上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名								
事業の目的と概要										
【目的】 吹田市南千里庁舎の維持管理を行います。										
【概要】 南千里庁舎管理事業(南千里庁舎の施設及び設備の保守点検、修繕等に関すること)										

I 事業の成果(実績)

指 標 名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成 果 指 標 の 定 義
庁舎使用率	%	100	100	100	吹田市南千里庁舎の延床面積に対して、庁舎として使用している割合
成果の説明	土木部内各室の事務室及び倉庫として有効に活用しています。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
経常収入				
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	859	880	58	△822
経常収入 小計(a)	859	880	58	△822
経常費用				
給与関係費	8,170	14,356	14,294	△63
物件費	18,502	19,681	19,784	103
維持補修費	1,122	13,069	7,005	△6,064
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	-	3	15	12
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	9,328	8,907	8,418	△488
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	980	1,318	1,315	△3
退職手当引当金繰入額	1,787	5,859	579	△5,280
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	39,889	63,192	51,409	△11,783
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△39,030	△62,312	△51,352	10,960
特別収入				
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用				
固定資産除売却損	-	10,650	-	△10,650
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	10,650	-	△10,650
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	△10,650	-	10,650
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△39,030	△72,963	△51,352	21,611
一般財源充当額	28,400	48,344	43,556	△4,788
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△10,630	△24,618	△7,795	16,823

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決 算 額 の 主 な 内 容
維持補修費	南千里庁舎建物等修繕に係る経費 7,005千円(6,064千円の減)
退職手当引 当金繰入額	退職手当引当金繰入額 579千円(5,280千円の減)

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

区分	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	835	904	27	△877
行政サービス活動支出	29,235	49,248	43,583	△5,665
行政サービス活動収支差額	△28,400	△48,344	△43,556	4,788
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	-	-
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△28,400	△48,344	△43,556	4,788
一般財源充当額	28,400	48,344	43,556	△4,788
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の 主な内容	(行政サービス活動支出) 南千里庁舎警備業務 6,204千円 南千里庁舎清掃業務 1,967千円 ほか
--------------	---

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指 標 名	年度	実績	単位あたりコスト	分析 内 容 (前 年 度 と の 増 減 理 由)
建物1㎡あたりのコスト	平成30年度	3,480 ㎡	11,462 円	令和元年度は、冷温水発生機故障のため建物等修繕に係る経費が増加しましたが、令和2年度は大規模な修繕がなかったため単位あたりコストが減少しています。
	令和元年度	3,480 ㎡	18,159 円	
	令和2年度	3,480 ㎡	14,773 円	
	平成30年度		円	
	令和元年度		円	
	令和2年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	1,318	1,315	△3
未収金	-	31	31	地方債	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	1,318	1,315	△3
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	558,365	549,947	△8,418	その他流動負債	-	-	-
土地	465,063	465,063	0	固定負債	12,454	11,865	△589
建物・工作物	93,303	84,884	△8,418	地方債	-	-	-
リース資産	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	退職手当引当金	12,454	11,865	△589
無形固定資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
土地	-	-	-	負債の部合計	13,772	13,180	△592
建物・工作物	-	-	-	純資産	544,593	536,798	△7,826
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	-	-	-				
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-	純資産の部合計	544,593	536,798	△7,826
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	558,365	549,978	△8,418	負債及び純資産の部合計	558,365	549,978	△8,418

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

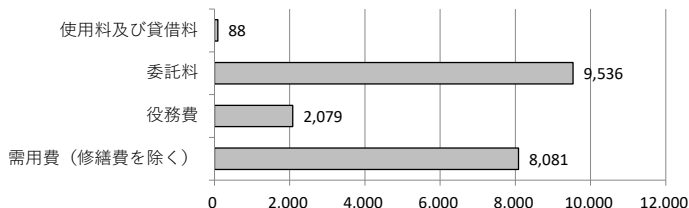
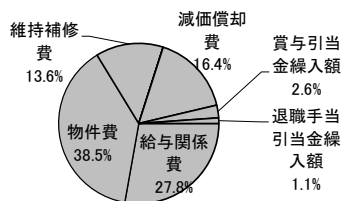
	常勤・再任用 月平均	会計年度任用等 年間従事延日数	特別職非常勤 年間従事延日数	
事業従事人数	2人	日	日	
給与関係費等	16,187千円	千円	千円	合計(千円) 16,187
内、時間外勤務手当	千円			

貸借対照表の主な増減理由(特微的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	南千里庁舎建物の減価償却等により8,418千円の減

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市南千里庁舎
取得年月日	昭和56年(1981年)4月1日
建物・工作物の取得価額	506,010 千円
建物・工作物の減価償却累計額	421,126 千円
利用料金収入	- 千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	年度	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率		0.2	2.6	1.4	△1.2
施設老朽化比率		78.2	81.6	83.2	1.6
受益者負担比率		-	-	-	-
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		97.1	98.2	99.9	1.7
経常費用対公共資産比率		7.7	12.5	10.2	△2.3

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常費用の主なものは、物件費19,784千円(38.5%)、給与関係費14,294千円(27.8%)、維持補修費7,005千円(13.6%)、減価償却費8,418千円(16.4%)等で経常費用全体の96.3%となっており、昨年度とほぼ同じ構成となっています。

ただ、市保有施設全体の老朽化比率が57.2%であるのに対して、南千里庁舎では、83.2%と高い比率となっています。また、令和元年度は南千里庁舎冷温水発生機修繕に伴い施設維持補修費が増となりましたが、令和2年度については、大規模な修繕等がなかったため同比率が昨年度より1.2ポイント減の1.4%となっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

南千里庁舎は、昭和56年(1981年)の竣工から40年が経過しており、令和元年度(2019年度)は冷温水発生機の修繕、令和2年度(2020年度)は消防設備不具合の修繕を行ったものの施設老朽化比率は83.2%と市保有施設全体の同比率57.2%を大きく上回っています。施設の老朽化に伴う経年劣化により、揚水ポンプの故障など修繕に係る経費が増加していますが、厳しい財政状況のもと十分な修繕費が確保できず、必要最低限の修繕のみの実施となっています。

また、南千里庁舎は、災害発生時には道路復旧等の拠点となる重要な施設であることなどから、施設の適切な維持管理や機能向上のため南千里駅西側の第13駐車場跡地に北消防署、中消防庁舎、南千里庁舎及び教育センター等の各機能を集約した「北部消防庁舎等複合施設」の建設を進めています。